

地域協働学校だより

令和7年1月28日

第10号

新宿区立市谷小学校

地域協働学校運営協議会

1月23日（木）3校時に行われました5年生「環境学習（SDGs）」の出前授業をご紹介します。

今回は、SDGsに対する企業の取り組み事例として、スズキ株式会社マリン事業本部マリン営業部の田島 寛大（たじま ともひろ）さん、山田 千晴（やまだ ちはる）さん、株式会社スズキマリン関東営業所の西田 樹生（にしだ みきお）さん、江川 暢人（えかわ のぶと）さん、萩田 怜音（はぎた れおん）さんにお越しいただき「海洋プラスチックごみと私たちにできること」というタイトルで講義をしていただきました。

〇船外機とは

スズキ株式会社で製造している商品から、船外機（様々な用途の船や小型ボートに取り付け、取り外し可能な推進機関）の紹介や開発から製造に至るまでの工程など動画を用いてご説明がありました。

〇海洋プラスチックごみとは

私たちが日常生活で使用したプラスチック製品がポイ捨てや台風等の荒天によりきちんと処理されず海へ流れ着いてしまったごみのことで、世界の海に1億5000万トンも浮遊しており大きな環境問題となっているというお話がありました。

また、その海洋プラスチックごみが劣化して砕けたり削れたりして5mm以下の大きさになったものをマイクロプラスチックと言い、魚が食べてしまうことで人間にも影響が及ぶことが懸念されているというお話もありました。

〇スズキの取り組み

スズキ株式会社ではSDGsの17のゴールから「12 つくる責任つかう責任」と「14 海の豊かさを守ろう」に向け「スズキオーシャンプロジェクト」を立ち上げ、世界中の海をきれいにしていくために主に下記3つの取り組みを実施しているそうです。

- ① 海、河川及び湖沼でボランティアの清掃活動を実施
- ② 船外機の製品や部品の梱包資材からのプラスチック削減
- ③ 船外機に取り付け可能なマイクロプラスチック回収装置の開発

〇わたしたちにできること

海洋プラスチックごみが増えないように、日常生活でのプラスチック製品の使用を少なくすることや使用した後にリサイクルかごみとして分別することが重要とおっしゃっていました。

5年生の皆さんからの質問では「船外機で回収したマイクロプラスチックはどうするのか?」「マイクロプラスチック回収装置が着いている船外機は何台くらい生産されているのか?」「他にも環境に良い製品開発をしているのか?」などたくさんの質問があり、環境問題や企業の取組みに対する児童の関心の高さが見られました。



地域協働学校だよりの最新版は市谷小のホームページのトップページ、バックナンバーは以下の URL から
<https://www.shinjuku.ed.jp/es-ichigaya/kyoudou.html>